

令和2年度 第1回 釜石市都市計画審議会 議事概要

開催日時： 令和3年3月26日（金）13時30分から15時00分まで

開催場所： 釜石市役所第4庁舎 第7会議室

出席者

審議会委員

木下 純	(一社)岩手県建築士会釜石支部 副支部長	学識経験者（会長）
中馬 慶子	岩手県環境カウンセラー協議会	学識経験者（副会長）
川嶋 昭司	市議会議員	市議会議員
三浦 一泰	市議会議員	市議会議員
野田 忠幸	市議会議員	市議会議員
佐々木 聡	市議会議員	市議会議員
高橋 松一	市議会議員	市議会議員
岩切 久仁	釜石ロード女性の会	市民団体
小笠原 房子	釜石市農業委員会	関係行政機関
仲谷 千春 (代理：谷藤 隆一)	岩手県釜石警察署長 (交通課 規制係長)	関係行政機関
高橋 正博 (代理：下川 憲)	岩手県沿岸広域振興局土木部長 (企画調整グループ 総括主査)	関係行政機関

※ 欠席委員： 佐々木 晴美 委員（釜石市社会福祉協議会）

事務局

建設部：建設部長 菊池拓也

都市計画課：都市計画課長 三浦康男

都市計画係長 瀬戸周、主査 原田清司

議事概要

1. 開会

三浦都市計画課長より、会議成立の報告を行う。

菊池建設部長より、開会の挨拶を行う。

三浦都市計画課長より、「委員の紹介」、「審議公開の確認」を行う。

2. 議題

(議案第1号) 釜石市都市計画審議会会長及び副会長の互選について

菊池建設部長を仮議長とし、審議会会長及び副会長の互選を行う。

事務局一任となり、会長に木下委員、副会長に岩切委員が選出される。

(報告第1号) 第2次釜石市都市計画マスタープランの策定について (中間報告)

1) 報告

瀬戸都市計画係長から策定状況の中間報告を行う。

2) 質疑

(佐々木聡委員)

全体構想の将来都市構造において、中心拠点を大町周辺から魚河岸周辺としているが、現在、日本海溝・千島海溝沿いの最大クラスの津波による浸水想定が公表されていて、東日本大震災においても大町周辺、魚河岸周辺は浸水している。

そのような状況で、浸水区域を中心拠点とすることについて、どう考えているのか。

また、中心拠点に対して地域拠点のなかに小佐野地区も明記されているが、当局としては、小佐野コミュニティ会館の新築といった構想もあるなか、津波浸水があった場合は災害対策本部を小佐野地区に置くといった方針が示されている。

中心拠点と地域拠点の位置付けについて、防災の視点から当局の考えをお聞かせ願いたい。

(瀬戸都市計画係長)

ご指摘のとおり、中心拠点は、津波災害発生時において浸水が想定される区域である。

しかしながら、既成市街地、今ある商業施設、業務施設の状況を踏まえると、いわゆる東部地区を今後も中心市街地のなかでも中心といったところで位置づけていく必要があると考えているところ。

確かに津波発生時には浸水リスクがあるが、やはり釜石の顔、これまでのまちの成り立ち、今ある施設の状況というものを踏まえて、この地区を中心拠点と設定している。

当然、中心拠点だけでは市民は生活できないので、日常生活における拠点として、各地区の生活応援センター周辺を地域拠点と位置付けており、こちらが生活の拠点となっていくと考えている。

商業・まちなかの中心としては東部地区と考えている。

(佐々木聡委員)

全体構想の都市施設等の方針で、釜石両石 IC のフルインター化にむけた活動展開、説明のなかでは要望していくといった説明だったが、ここは震災前に国が一定の条件に基づいて整備した結果、現在ーフインターとなっているもの。

これをフルインター化に向けて要望するといった時に、その見込みをどのように考えているのか。

(菊池建設部長)

現在、三陸沿岸道路は岩泉から仙台までつながったが、まだ未完成の区間もある。

今後の動きとしては、全線開通後、取り巻く状況を見極めたうえで、要望活動を進めていきたいと考えている。

今すぐにとということではなく、釜石港の状況を踏まえて要望するにあたって、全線開通して人の動きが出来て、現状では足りないといったものが見えてくれば、それを数値化して要望することによって、国のほうも心を動かしてくれる部分もあるかと思っている。

もう少し様子を見ながら、両石 IC だけに限らず、北 IC、唐丹 IC、南 IC を含めて活用の仕方を考えながら、要望していくというような順番だと思う。

すぐにというものではないが、今回、位置づけておくのは大切なことだと考えている。

(佐々木聡委員)

住民アンケート調査について、当市における高齢化率が 40 パーセント近くになっている状況で、アンケートの回答者の割合をみると、60 歳代・70 歳代の割合が約 58 パーセントになっており、20 歳代から 50 歳代までの市民の声の吸い上げが不足する可能性がある。

この会議を開催していくなかで、いかに市民の声を偏りなく集めていくのか。

回答者の年齢層の割合が偏らないような工夫をしていただきたい。

(瀬戸都市計画係長)

アンケートを実施する際、我々もその点がすごく気になっていたところ。

単純に無作為で抽出すると若い世代の票が少なくなってしまうことが懸念されたので、多少若い世代が多くなるよう配慮した。

しかし、若い世代の回答率が低かったため、このような結果となった。

ご意見を踏まえ、これまで以上に意識して取り組んでいきたい。

(三浦委員)

都市づくりの基本方針に係ることだが、コロナウイルスの関係で生活のあり方が大きく変わってきていて、企業もこれまでと違う企業活動になっている。

国も、都内に集中している労働者を地方に誘導するような政策に力を入れていく動きもあり、こうした動きを、都市づくりの方針に反映することも大事なことと考えている。

一度、その辺をチェックして、国がどのような考えを持っているのかも睨みつつ、方針を書かれた方が良いと思っている。

また、釜石は企業町で、鉄と魚とラグビーの町というように、海のものがあり、そして、産業が盛んである。

釜石に住んでいるとなかなか分からないかもしれないが、釜石の労働者や釜石の風土は優れていて、力がある方が生まれている。

他の地域で、企業を興して人を集めるといっても、なかなか良い人材が集まらないが、比較的、釜石は良い人材が集まる。

それを踏まえると、企業誘致というのも大事ですが、ものづくりはひとつづくりと言われており、人をどう育てていくか、そういった風土も大事にしていくべきと思っている。

どこからか企業や人を誘致すればいいというだけではないので、そういった部分でも釜石らしさを大事にした方が良いと考えている。

最近、県立釜石病院の件で、若い人たちが住むために、本当にこれで良いのかと話題になっている。

それから考えると、都市づくりの方針の「高齢化社会に対応」は必要だが、反対に若い人たちに対しての対応をフレーズで入れ込まないと、若い世代が見たときに不満を感

じるのではないか。

また、全体的に、ハードの部分で交流を持つ・連携を持つ・拠点を設ける、ということであるが、人口減少が進み2万7000人位になった時、市の職員は何人位になるのか。

その時の体制のなかで、これらの拠点で、今のようなサービスを維持することは困難である。

そのような状況を踏まえると、ハードだけではなく、ICTを活用した連携も考えていく必要があると考える。

(三浦都市計画課長)

都内から地方への移住、ICTの活用について、その通りと考えている。

今は会社に出勤しなくても仕事ができる社会環境があり、インターネット環境の普及や釜石の住みやすい環境・気候をアピールしながら、若い世代を呼び込んでいきたいと考えているので、高齢者だけではなく若い世代も暮らしやすい部分、そういった視点でも検討を進めていきたい。

(岩切委員)

若い世代を大事にしていくべきという意見に賛成である。

復興住宅に若い人が入居しても、期限がくると家賃が倍ぐらいになる、給料が安いのに、一気に倍にされることがあると聞いた。

若い人を大事にするため、釜石独自に何らかの支援が出来ればと思う。

住民アンケートの結果について、何が「住みよい」のかと考えるが、他の地域に行った方によれば、釜石での暮らしはゴミの処分がとても良かった、日々の暮らしで複雑なゴミの仕分けがなくて住みやすいと言っていた。

ゴミに関する記載はないが、その辺を複雑にしない街であると良いと思う。

観光について、いつも思うのは自然を活かすことで、今日も色々な説明があったが、ぐるっと回れるようなウォーキングコースを開発すれば、県外からも人が来るのではないかと思うことがある。

夢のような話では、インクラインを人工のスキー場にして、あそこから滑ったらどんなにいいんだろうなといつも思っている。

今でもスキーをするが、通年できて、海を見ながら滑ることができる施設は、他にないんじゃないかと思う。

夢のような話は以上である。

(三浦都市計画課長)

復興住宅の若い世代の件について、収入が低く、自分で住宅を確保できない方を対象としているのが、そもそもの公営住宅の制度であるため、収入の状況によっては家賃が高くなってしまう。

将来、市の施策として出来ることは、復興住宅を公営住宅法の網から外し、市の単独住宅として家賃を定額で低く抑えろとか、そういう対応は方策としては可能である。

しかし、市内の民間アパートも結構新築されていて、そちらのほうも復興事業が終期を迎え、空き室が目立ってきているという話もある。

市の住宅で、あまりにも家賃を低く抑えてしまうと、民業圧迫になりかねないので、バランスを見ながら、この20年の計画の中で検討していきたいと考えている。

(小笠原委員)

鵜住居や栗橋の方では、震災後、多くの仮設住宅が農地に建設され、その撤去にあたっては、農地も元の通りに直していただいているようだが、既に農地の所有者も高齢化が進んでおり、そのような農地が原野になるのではと懸念している。

一時期は県道の交通量が非常に多く危険を感じることもあったが、今は減少していて、自然環境は最高である。

しかし、人口が少なく、もちろん若い人もいないし、高齢化もしている。

中間層の人も、働いて働いて亡くなるという感じである。

それはそれとして、仮設住宅の跡地の整備について、よく考えていただきたいと思う。

(三浦都市計画課長)

仮設住宅の跡地や復旧について、縦割りと言われるかもしれないが、仮設住宅の建設・復旧は県の事業であり、その財源に災害救助費という国の補助金を活用していて、元あった状態に復旧するのが原則である。

国の補助金を活用できるのはそこまでであり、また、民有地ということもあって、そのような状況を把握しつつも、今すぐの対応策を示せない状況である。

(菊池建設部長)

栗橋地区の道路について、まさに景観形成という部分のご指摘もあろうかと思う。

そういう部分の結びつきや橋野の世界遺産もあるので、道路も都市計画の分野と調整していく。

先程、県事業という話があったが、県道に関しては県にお願いしていく立場になるので、引き続き調整をしていきたい。

(高橋松一委員)

釜石らしくていいなあと、そう思いながらいくつかお伺いする。

1つは、市の第6次総合計画、10カ年計画を補うような、増補するような形で20年の計画といったような説明だったかと思う。

かなりのギャップがあるが、市の考えているまちづくりの法律は、何に基づいているのか、都市計画法の一番の基本の部分では、どのようなことが書かれているんだろうなと思っているところ。

いま、栗橋の話もあったが、そういった法律の中にも地域を大事にするということが書かれているんじゃないかなと気にしており、確認のためにお伺いする。

震災があって10年休みの感じで第6次総合計画がスタートするなかで、釜石の人口減少からするとかなり厳しい実感である。

それを20年間で補っていくということで、都市計画道路の未完成路線に、具体的な路線名、平田源太沢線、鈴子町中妻線などが書かれており、気になっている。

これらは都市計画決定からかなり年数が経っていて、これらの裏付けには県のほうのアドバイスが必要ではなかったのかと思っている。

差し支えなければ、県の方からこういったことに対するアドバイスを聞かせていただければありがたいと思う。

やはり、こういったところには、前段で出てきた釜石の人口減少、経済が懸念されるような状況のなかだと、人口減少に歯止めをかけるのはかなり難しいことだと思う。

それに伴うようなお金の使い方も、これから、市の総合計画で考えていく必要があるのかなと思う。

古い計画に対する見直しを今後どのような形でやっていくのか、お聞かせ願いたい。

(瀬戸都市計画係長)

都市計画法の理念について、間違いがあるかもしれないが、言葉どおり、都市の計画なので、極端に言うと、住みよいまちなかを造るための法律で、極端に言うと、農村部や漁村部は都市ではない。

まちなかを造っていくにあたって、無秩序にそれぞれが行ってしまうと、非効率だったり、住みにくい都市になってしまうので、都市に住む人間が生活しやすいように、地域環境にあった都市を造っていくための法律である。

具体的な手法として、様々なことを制限していくことになり、例えば用途地域で、この土地でこれは建ててはダメとか、ここには道路を造るから家を建ててはダメとか、そういう様々な都市計画法の制限で、そこに住む人間が住みよい環境をつくっていくための法律と捉えている。

(菊池建設部長)

都市計画道路について、先ほど県の方と仰いましたが、未完成路線のような道路については、かなり大きい計画であり、市単独ではできないというところで、県にもお願いしながら整備を進めてきたといったところ。

しかし、高規格幹線道路が開通したことにより、そのあり方が少し変わってきていると思っており、今後、状況を見据えながら、必要性や費用対効果を踏まえて計画していくべきと考えている。

必要であれば、当然県の方にもお願いをしながら整備を進めていく前提ではあるが、今後、見直しという部分を含めて、検討していきたい。

(高橋松一委員)

要望として申し上げる。

アンケート調査を一生懸命やられたようで、回収率はまあまあなのかなと思う。

しかし、今後、アンケート調査をする場合は、市民が興味を持つような、例えば、今お答えがあったような平田源太沢線や鈴子町中妻線については、地域の方々がまだまだ興味を持たれているようであり、両路線とも大事な路線であると思っている。

もう一つ大事なのは、生活応援センターを中心に地域活動がされているので、都市計画も総務も地域と一緒にあって、情報交換できるようになっていただきたいと思う。

3. 閉会

三浦都市計画課長より、今後の予定を報告し、閉会した。

以 上